

1 苓桂朮甘湯エキス

2 性状及び定量法(1)の項を次のように改める。

3 性状 本品は褐色の粉末又は黒褐色の軟エキスで、においがあ
4 り、味は甘く、後に苦い。

5 定量法

6 (1) (E)ーケイ皮酸 本操作は遮光した容器を用いて行う。
7 乾燥エキス約0.5 g (軟エキスは乾燥物として約0.5 gに対応
8 する量)を精密に量り、薄めたメタノール(1→2) 50 mLを正
9 確に加えて15分間振り混ぜた後、ろ過し、ろ液を試料溶液
10 とする。別に定量用(E)ーケイ皮酸約10 mgを精密に量り、
11 薄めたメタノール(1→2)に溶かして正確に100 mLとする。
12 この液10 mLを正確に量り、薄めたメタノール(1→2)を加え
13 て正確に100 mLとし、標準溶液とする。試料溶液及び標準
14 溶液10 µLずつを正確にとり、次の条件で液体クロマトグラ
15 フィー〈2.01〉により試験を行い、それぞれの液の(E)ーケイ
16 皮酸のピーク面積 A_T 及び A_S を測定する。

17 (E)ーケイ皮酸の量(mg)
18 $=M_S \times A_T / A_S \times 1 / 20$

19 M_S : 定量用(E)ーケイ皮酸の秤取量(mg)

20 試験条件

21 検出器: 紫外吸光度計(測定波長: 273 nm)

22 カラム: 内径4.6 mm, 長さ15 cmのステンレス管に5
23 µmの液体クロマトグラフィー用オクタデシルシリ
24 ル化シリカゲルを充填する。

25 カラム温度: 40 °C付近の一定温度

26 移動相: 水/アセトニトリル/リン酸混液(750 :
27 250 : 1)

28 流量: 毎分1.0 mL [(E)ーケイ皮酸の保持時間約12分]

29 システム適合性

30 システムの性能: 標準溶液10 µLにつき、上記の条件
31 で操作するとき、(E)ーケイ皮酸のピークの理論段
32 数及びシンメトリー係数は、それぞれ5000段以上、
33 1.5以下である。

34 システムの再現性: 標準溶液10 µLにつき、上記の条
35 件で試験を6回繰り返すとき、(E)ーケイ皮酸のピ
36 ーク面積の相対標準偏差は1.5 %以下である。

37

38

39